特集

エスコンフィールド開業からこれまでの〝通信簿〟

３月に開業した日本ハムファイターズの新本拠地「エスコンフィールド北海道」。日ハムの成績は一向に振るわないなか、新球場を含む「Ｆビレッジ」を訪れる人は増え続けている。人口５万７０００人のマチに試合開催日は３万人のファンが訪れることもある北広島市では交通渋滞や違法駐車、通信障害などの新たな問題も生まれている。「エスコン」の功罪を探った。

（ジャーナリスト・黒田　伸）

命名権買ったエスコン

「日本エスコン」という不動産開発会社が２０２０年１月に新球場の命名権を取得したと、マスコミ報道された時、「エスコン」という社名を知っていた北広島市民や道民はほぼいなかったはずだ。

開業前から命名権を使える条件を日ハム側と取り交わしたためマスコミが新球場の話題を提供するたびに知名度が増し、今では会話の中に「エスコン」が普通に出るようになった。

命名権取得後、東証１部上場の「日本エスコン」の株価は値上がりし、８００円前後で推移。開業後も右肩上がりの株価を維持している。

10年間の使用権を得て契約総額は50億円以上といわれた命名権だが、会社の総合的評価は上がり「元を取る」ことは十分可能と思われる。

「Ｆビレッジ」内にはエスコンが運営するサービス付き高齢者向けマンションの建設も進む。

「エスコンが来たからこんな花火が見られた」と市民が大喜びだったのが７月29日夜に行われた「ファイターズ超花火大会」だ。

球場に隣接する北広島高校のグラウンドから約６０００発が打ち上げられた。

当初は球場周辺で鑑賞できないとされ、「当日昼のオリックス戦のチケットを持っていないと見られない」とファイターズスポーツ＆エンターテイメント（ＦＳＥ）が発表していたため、あきらめていた人もいたが、打ち上げが始まると市内各所からも十分楽しめた。

▲試合のない日もエスコンに訪れる客

球場そばの「ビッグボスブリッジ」付近まで近づくことができた70歳代の女性は「北広島でこんな花火を見ることができるとは思わなかった」と興奮しながら話し、ＪＲ千歳線の線路際に陣取ったカップルは「すごすぎる」と次々と打ち上がる花火を見上げていた。

▲天然芝に覆われた球場

来場者２００万人突破

日本ハムは８月３日、「エスコン」を含む「Ｆビレッジ」の来場者数がプレオープンの３月12日からの１４５日間で、２００万人を突破したと発表。試合のない日も大型イベントが開催されたことが集客につながったとみられる。

ＦＳＥは「今後も、さまざまなイベントやアクティビティを開催していく」と発表している。

ただ、８月５日までの球団別の試合日の観客動員数を見ると、１位は阪神の２１４万人で１試合平均４万１１００人が来場するなど上位はセ・リーグ球団が占めている。

パ・リーグの１位はソフトバンクの１試合平均３万５７００人、２位が日ハムの同２万６０００人、以下オリックス、ロッテと続き西武は１万９７００人で最も少ない。

野球自体の人気は相変わらずセ・リーグが上で、パ・リーグは集客に野球以外の要素を取り入れる必要があることがわかる。

数字が示すように、もともと日中に流入する人が少なかった街に２万人以上が訪れるようになり、北広島市内は劇的に変化している。

玄関口となるＪＲ北広島駅は、改札口を出ると多目的スペース「エルフィンパーク」が元々あったが大型モニター２台が設置され、球場内の飲食施設の紹介動画や人気のきつねダンスが常時放映されている。新改札口も出来たほか、コンビニも開店した。

西口からはシャトルバスが発着し、試合開始前のピークになると数百メートルの乗車待ちの列ができる。タクシーはフル回転し、乗り入れている各社は増車や乗務員の確保に迫られるなど、交通事業者にとっては「うれし

続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

〇インターネットでのお申し込みはこちらから

https://qualitynet.co.jp/koudoku/

〇お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

（9:00 ～ 17:30　土日・祝日をのぞく）